

# 医系技官より近況報告

## 医系技官という仕事

島根県健康福祉部健康推進課 知念 希和 (20期生)



皆様こんにちは。同窓会20期の知念希和と申します。

私は大学卒業後、県立北部病院で初期・後期研修を受け、医師5年目の平成22年に厚生労働省に入省しました。琉球大学卒業生として初の医系技官になります。国で

働く中で、ぜひとも、沖縄から、琉球大学から、もっと多くの医系技官が生まれてほしいと願うようになりまして。この機会に、まずは医系技官について知っていただき、ご興味を持っていただければ嬉しく思います。

さて、「医系技官」って？という方も多いと思います。私も卒後に初めてその存在を知りました。医系技官とは、「医師・歯科医師免許を有し、専門知識をもって、保健医療に関わる制度作りの中心となる技術系行政官」とされます。その仕事は多岐に渡り、政策の立案（現場視察、審議会での議論、法案や予算案の作成）、決定（国会審議等）、実施に至るすべてのプロセスに関与します。医師としての専門性はもちろんのこと、高い行政スキルも求められ、双方のバランスを取りながらの業務遂行が必要となります。

私の場合、最初の配属先が医政局総務課という、医療提供体制全般を所管する局のとりまとめ課でした。現在、社会保障制度改革の大きな動きがありますが、当時はその改革の中身を考える段階にありました。事務系の行政官とともに、病院の実態がどうであるか、患者さんの心理はどういうものか、疾病の急性期や慢性期ってどういう状態なのか、そういう様々なことを勘案しながら、あるべき医療提供体制の実現に向けて議論を重ね続けたことが、私の行政官としてのスタートだったと感じています。

その後文部科学省を経て、本年4月から、島根

県健康福祉部健康推進課長を拝任し、歴史香る島根県でお世話になっております。当課では、健康づくり、がん対策、医療費助成、医療保険などを所管しており、日々島根の健康のために奮闘しております。

入省5年目と経験も浅い中ではありますが、行政官としてのやりがい、楽しさ、また責任や事柄の重大さを、ひしひしと感じる日々です。もちろん、いいことばかりではありません。不夜城といわれる霞ヶ関での業務は深夜に及ぶこと、政治や団体等との調整は困難を極めること、世間の公務員を見る目は極めて厳しいことなど、医療の世界とのギャップに幻滅し、数年で臨床に戻る医師も多くいます。

そうした中であっても、自身の思いや考えを、国全体の政策に繋げることができることは、やはり医系技官最大の魅力だと思います。そこに惹かれるものを感じてくださるならば、ぜひ行政の道も将来の選択枝に入れていただければと思います。

最後に、私的なことを少しだけ。去る9月の医学部空手道部記念式典では、関係者の皆様方に大変お世話になりました。久しぶりに先輩、後輩の方々にお会いでき、とても楽しい時間となりました。今回は出席が叶わなかった皆様とも、いつかどこかでお会いできることを楽しみにしております。

どうもありがとうございました。